

## 情報産業の時代において情報の価値の基準とはなにか

情報の価値とは、の前にまず情報の量から考えてみましょう。ウィーナーのサイバネティクスを平たく言うと、情報の量とはその情報が予想しがたい情報であればあるほどその量は大きくなるという。つまりニュースになる興味深い情報であれば量は大きい。重要なかどうかはともかくとして、まず自然ではない方向、エントロピーの増大が小さければ小さいほど、更には減少の度合いが大きければ大きいほど、量は大きい。短絡にいけば量が大きい、ならばその情報の価値は高いとなってしまいます。しかし、そうではないでしょう。なぜなら、例えば沖縄に雪が降ったとしましょう、予想しがたい情報ですから情報量は大きいですが、沖縄にかかわらない大多数の人類を始め諸生物たちにとっては価値という点から見ればなきに等しいものです。情報産業の時代とはそんな確率論的に価値基準を決めていかなければならないのでしょうか。そんなことはありません、価値基準とは、個々に異なりながらも客観的にみんなが認められるものでなくてはならないのですから。

さて、農業の時代、工業の時代、そして情報産業の時代へと変わりつつある今ですが、今はまだまだ工業の時代の価値基準だけで人間社会は動いています。各時代ごとの価値基準を見ていきますと、農業の時代には人が生きるために必要最低限のことが情報として重要でした。大地は主食を生み出すためだけのものでした、基準となるものは主食に絡むもの、日本で言うなら石高です。次に工業の時代にはその工業技術で農業収益が格段に上がったがため、人は食べることだけにあくせくする必要がなくなり、価値基準も変化しました。逆に農業の時代、農業収益を上げんがために工業技術を必要としていったともいえますが。その工業の時代、大地は工場を建てるためのものとなり、価値基準はお金というものになりました。そしてそのお金、工業収益をいかに効率よく高めるかのために情報というものが重要視されるようになり、結果としてそれが次の情報産業の時代への変遷を促しています。さて情報産業の時代には農業から工業の時代への変遷にならうと、人は、お金をためること、勿論食べることにもあくせくする必要はなくなるのです。大地は人をはじめ、諸生物の居る場ということが重要になります。価値基準は時間、いかに生きるためにあくせくする時間を減らし、自らが自由にできる時を得ることができるかが、全ての価値基準となります。ですから同じひとつの情報の価値が人によって非常に大きく異なることとなりますがその基準はただひとつ、自由になる時間、つまり農業や工業の時代の基準で生産的・非生産的を問わず、なんでも自由に活動をすることができるかが価値基準となります。情報の量は大きなくても価値がない、逆に小さくても価値がある情報というものが個々に存在し、人々はより多く自分のためだけに使える時間を求め、生きていくこととなります。

おしまい

Maki Rouel fin 2001,1,30 depuis 1996,7,1